

今となつては昔のこと、比叡の山に児がいた。僧たちは、夜の所在なさに、「さあ、ぼた餅を作ろう」と言ったので、この児は、期待して聞いていた。かといって、作り上げるのを待つて寝ないでいるのも、きつと(1・⑧)よくないだろうと思つて、部屋の片隅に寄つて、寝ているふりで、(僧が)がぼた餅を持って出て来るのを、(児が)待つていると、どうやらもう出来上がったようで、(僧たちが)騒ぎあつてゐる。

この児は、きつと(2・②)起こしてくれるだろうと待つてゐると、一人の僧が、「もしもし。目をお覚まし下さい。」と言うのを、嬉しいとは思つたけれど、たつた一度で(2・⑨)返事をするのも、待つていたと思うと困ると考えて、もう一度呼ばれたら返事をしようと、(2・⑩)我慢して寝ていると、「おい、お起こし申し上げるな。幼い人はお眠りになつてしまった。」と言う声が出たので、(3・③)ああ困つたと思つて、もう一度起こしてくれよと思ひながら寝て聞くと、むしやむしやとただただ食べている音がしたので、(3・⑥)どうしようもなく、ずいぶん後に、「はい。」と返事をしたところ、僧たちは、笑ふこと果てしない。

